

※教科書が必要です。

実施日： 月 日

教科書 1 p. 22-37

3

タオル

文章完全マスタープリント

教科書 24～35 ページ 「タオル」の全文を読んで、あとの問いに答えなさい。

(1) 24 ページ 7～8 行め 「自分より少し年上の客を、まぶしそうに見つめていた」とありますが、ここから父のどのような気持ちがわかりますか。二十字以内で書きなさい。

(2) 25 ページ 17～18 行め 「こげな日にふらふら遊んどったらバチが当たるよ。」について、次の各問いに答えなさい。

- 1 「こげな日」とは、どのような日ということですか。簡潔に書きなさい。
- 2 こう言ったときの叔母の気持ちが表れた部分を、文章中から十二字で抜き出さない。

(3) 26 ページ 9～10 行め 「おじいちゃんが死んだのは悲しいことだ。／＼それもわかる。」とありますが、ここから少年のどのような気持ちがわかりますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 祖父がお別れの言葉を交わす間もなく死んでしまったことが信じられないと思っっている。
- イ 祖父の死を心から悲しんでいるのに、どうして涙が出てこないのか不思議に思っている。
- ウ 自分がかわいがってくれた祖父が死んだのに、悲しみが湧いてこないのは変だと思っっている。
- エ 自分がかわいがってくれた祖父が死んだので、こんなに悲しいのは当然だと思っっている。

--

(4) 27 ページ 7～8 行め 「とりあえず道案内と客のお世話という仕事が与えられてほっとした」とありますが、それはなぜですか。次の文の□□にあてはまる言葉を、文章中から抜き出さない。

(5) 29 ページ 11 行め 「少年は少し足を速めた。」について、次の各問いに答えなさい。

- 1 少年が少し足を速めたのは、なぜですか。考えて書きなさい。
- 2 このときの少年の気持ちを、たとえを用いて表した一文を文章中から抜き出し、初めの五字を書きなさい。

※教科書が必要です。

(6) 少年が初めて祖父の死の悲しみを感じたのは、どのようなときでしたか。「写真」という言葉を使って書きなさい。

(7) 32ページ8～9行め「三代で船に乗れたらうれしいことです。」とありますが、祖父はどのようなことを願っていたのですか。「漁師」という言葉を使って書きなさい。

(8) 35ページ2行め「父は涙ぐみながら」とありますが、このあと父が実際に涙を流したことがわかる一文を文章中から抜き出し、初めの五字を書きなさい。

(9) 35ページ12行め「かすかな潮のにおいは、そこにもあった。」とありますが、これはどういうことを暗示していると考えられますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 祖父の血や生き方が、少年にも受け継がれていること。
- イ 漁師をしていた祖父が、死んで海に帰っていったこと。
- ウ 涙も海の水も、全く同じ成分で構成されていること。
- エ 少年が、将来漁師になるしかないことと諦めたこと。

(10) 「タオル」は、この作品の中で、どのような役割を果たしていますか。次の文の□にあてはまる言葉を、あとから一つずつ選んで書きなさい。

・漁師だった祖父の人柄や生き方を□するものであり、祖父が

死んだ悲しみを少年に□させる役割。

- 追求 実感 忘却 ぼうきやく 称賛 しょうさん 象徴 しょうてい

(11) Aさんは、この作品に出てくる「涙」に着目して、少年の気持ちの変化を次のようにまとめました。□①～③にあてはまるものをあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

「なのに、涙が出てこない。悲しいかどうかもはつきりしない。」(26ページ13行め) □①

「急に寂しくなった。涙は出なくても、だんだん悲しくなってきた。」(34ページ3行め) □②

「まぶしさに目を細め、またたくと、熱いものがまぶたからあふれ出た。」(35ページ11～12行め) □③

- ア 祖父の死が信じられず、心の底から悲しめないでいる。
- イ 祖父の死と向き合い、悲しみがこみ上げてきている。
- ウ 祖父がもうこの世にいないことを実感している。
- エ 祖父の死を具体的なものとして感じられないでいる。

名前:

確認

必修問題

得点

100

教科書

p. 18-19

次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

虹の足

吉野 弘

雨があがつて

雲間から

① 乾^{かん}麺^{めん}みたいに真^ま直^ちな

陽^ひ射^ざしがたくさん地上^{じやうじやう}に刺^ささり

行^ゆ手^てに榛^{はるな}名山^{みやま}が見^みえたころ

山^{やま}路^ぢを登^{のぼ}るバスの中^{なか}で見^みたのだ、虹^{にじ}の足^{あし}を。

眼^{まなこ}下^{した}にひろがる田^{たん}圃^ぼの上^{うへ}に

② 虹^{にじ}がそつと足^{あし}を下^{くだ}ろしたのを!

野^の面^{づら}にすらりと足^{あし}を置^おいて

虹^{にじ}のアーチ^{あし}が軽^{かろ}やかに

すつくと空^{そら}に立^たつたのを!

その虹^{にじ}の足^{あし}の底^{そこ}に

小^こさな村^{むら}といくつかの家^{いえ}が

③ すつぽり抱^だかれて染^ぞめられていたのだ。

それなのに

④ 家^{いえ}から飛^とび出して虹^{にじ}の足^{あし}にさわろうとする人^{ひと}影^{かげ}は見^みえない。

⑤ おーい、君^{きみ}の家^{いえ}が虹^{にじ}の中^{なか}にあるぞオ

乗^{のり}客^{きゃく}たちは頬^ほを火^ひ照^てらせ

野^の面^{づら}に立^たつた虹^{にじ}の足^{あし}に見^みとれた。

多^{おほ}分^{ぶん}、あれはバスの中^{なか}の僕^{われ}らには見^みえて

⑥ 村^{むら}の人^{ひと}々^々には見^みえないのだ。

そん^{そん}なこ^{ごと}もあるのだらう

22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

工 虹の足の底になつてゐるのに、村のものにはなんの影響も与えていない様子であること。

2 出^でる 村の人々が虹の足にさわろうとする気配がないのはなぜだと、「僕」は考えていますか。詩の中の言葉を使って、二十字以内で書きなさい。(10点)

Grid for question 2 answer

(4) 線④「おーい、君の家が虹の中にあるぞオ」とありますが、誰に對して呼びかけているのですか。詩の中から四字で抜き出しなさい。(10点)

Grid for question 4 answer

(5) 線⑤「乗客たちは頬を火照らせ」という表現から、乗客たちのどのような様子がわかりますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(10点)

- A あまりに美しい虹の足の底の情景に興奮する様子。
イ 今まで見てきた虹との違いに不安を覚える様子。
ウ 虹の足に村人の誰も気づかないことにいらだつ様子。
エ 虹の足に包まれた村に早く行きたいと熱望する様子。

(6) 出^でる 線⑥「そんなこと」が指しているのは、どのようなことですか。詩の中から抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。(10点)

Grid for question 6 answer

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(計60点)

汀にうち上がらんとするところに、おし並べてむざと組んでどうど落ち、とつて押さへて首をかかんと甲をおしあふのけて見ければ、年十六七ばかりなるが、薄化粧して、かねぐるなり。わが子の小次郎がよはひほどにて、容顔まことに美麗なりければ、いづくに刀を立つべしとおぼえず。

「そもそもいかなる人にてましまし候ふぞ。名のらせたまへ。助けまぬらせん。」と申せば、

「なんぢは誰ぞ。」

と問ひたまふ。「物その者で候はねども、武蔵の国の住人、熊谷次郎直実。」と名のり申す。

「さては、なんぢにあうては名のるまじいぞ。なんぢがためにはよい敵ぞ。名のらずとも首をとつて人に問へ。見知らうずるぞ。」

熊谷、「あつばれ、大將軍や。この人一人討ちたてまつたりとも、負くべきいくさに勝つべきやうもなし。また討ちたてまつらずとも、勝つべきいくさに負くこともよもあらず。小次郎が薄手負うたるをだに、直実は心苦しうこそ思ふに、この殿の父、討たれぬと聞いて、いかばかりか嘆きたまはんずらん。あはれ助けたてまつらばや。」と思ひて、後ろをきつと見ければ、土肥、梶原五十騎ばかりで続いたり。熊谷涙をおさへて申しけるは、

「助けまぬらせんとは存じ候へども、味方の軍兵、雲霞のごとく候ふ。よも逃れさせたまはじ。人手にかけまぬらせんより、同じくは、直実が手にかいまゐらせて、後の御孝養をこそつかまつり候はめ。」

と申しければ、

「ただとくとく首をとれ。」

とぞのたまひける。

熊谷あまりにいとほしくて、いづくに刀を立つべしとおぼえず、目もくれ

心も消えはてて、前後不覚におぼえけれども、さてしもあるべきことならねば、

泣く泣く首をぞかいてんげる。

「あはれ、弓矢とる身ほど口惜しかりけるものはなし。武芸の家に生まれずは、何とてかかる憂きめをばみるべき。情けなうも討ちたてまつるものかな。」

とかきくどき、袖を顔に押しあててさめざめとぞ泣きぬたる。やや久しうあつて、さてもあるべきならねば、鎧直垂をとつて、首を包まんとしけるに、錦の袋に入れたる笛をぞ、腰にさされたる。

「あないとほし、この暁、城の内にて管絃したまひつるは、この人々にておはしけり。当時味方に、東国の勢何万騎かあるらめども、いくさの陣へ笛持つ人はよもあらず。上臈は、なほもやさしかりけり。」

とて、九郎御曹司の見参に入れたりければ、これを見る人、涙を流さずといふことなし。

後に聞けば、修理大夫経盛の子息に大夫敦盛とて、生年十七にぞなられける。それよりしてこそ熊谷が発心の思ひはすすみけれ。

〔敦盛の最期——平家物語——より〕

(1) 線A「見ければ」、B「のたまひける」、C「嘆きたまはんずらん」は、誰の行動ですか。適切なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。(3点×3)

ア 若武者 イ 熊谷次郎直実
ウ 小次郎 エ 若武者の父

A B C

(2) 線①「いづくに刀を立つべしとおぼえず」とありますが、熊谷がどのように迷ったのは、なぜですか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(6点)

ア 相手が自分の息子と同じ年頃で、顔かたちも美しい若者であったから。
イ 相手を殺すより生け捕ったほうが、より手柄になるのではと思ったから。
ウ 相手が思った以上に手ごわくて、なかなか倒せなかつたから。
エ 相手が敵の大將であるとわかつて、急に恐れをなしたから。

(3) 線②「なんぢは誰ぞ。」という言い方から、若武者のどのような様子がわかりますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(6点)

ア 助けてもらいたいと必死になっている様子。

イ 死が恐ろしくて心をかき乱されている様子。

ウ 相手を恐れず、堂々としている様子。

エ 死を覚悟して、気力を失っている様子。

(4) 線③「あはれ助けたてまつらばや。」とありますが、熊谷が若武者を助けようと考えたのは、なぜですか。線③を含む熊谷の心情の内容を踏まえて、理由を三つ、それぞれ三十文字以内で書きなさい。(7点×3)

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> </table>																																									<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> </table>																																									<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td><td style="width: 25px; height: 25px;"></td></tr> </table>																																								

(5) 線④「同じくは」とありますが、どのようなことが「同じ」だといふのですか。簡潔に書きなさい。(6点)

--

(6) 思考力判断力表現力 次の文章は、Aさんがこの文章を読んだ感想です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

私は、熊谷が出家の気持ちを深めた理由について考えました。熊谷は、自分が武芸の家に生まれなければ、④のにと思っています。さらに、若武者が持っていた笛を見て、⑤。このようなできごとがあったので、熊谷は仏門に入って僧になる気持ちを固めたのだと思います。

1 ④にあてはまる言葉を、「若武者」という言葉を使って、十五文字以内で書きなさい。(6点)

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

2 ⑤にあてはまる言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。(6点)

ア 風流を好む人間でありながら、なぜいくさで戦っているのか、疑問を感じています

イ 武士でもないのに、いくさに巻き込まれて死んでしまった若武者をあわれに思っています

ウ 身分の高い若武者を討ちとるといふ手柄を立てられて、もう悔いはないと思っています

エ いくさの場にも笛を持参するような、風流を大切にしている若武者の姿に感動しています

--

※教科書が必要です。

実施日： 月 日

教科書 P.22-37

3

文章完全マスタープリント

タオル

- 教科書24～35ページ「タオル」の全文を読んで、あとの問いに答えなさい。
- (1) 24ページ7～8行め「自分より少し年上の客を、まぶしそうに見つめていた」とありますが、ここから父のどのような気持ちがわかりますか。二十字以内で書きなさい。

を	喜	ぶ	気	持	ち	。			
そ	の	人	に	再	会	し	た	こ	と

- (2) 25ページ17～18行め「こげな日にふらふら遊んどったらバチが当たるよ。」について、次の各問いに答えなさい。

- 1 「こげな日」とは、どのような日ということですか。簡潔に書きなさい。

例 祖父の通夜の日。

- 2 こう言ったときの叔母の気持ちが表れた部分を、文章中から十二字で抜き出しなさい。

し	目	を	真	っ	赤	に	泣	き	は	ら
た										

- (3) 26ページ9～10行め「おじいちゃんが死んだのは悲しいことだ。／それもわかる。」とありますが、ここから少年のどのような気持ちがわかりますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 祖父がお別れの言葉を交わす間もなく死んでしまったことが信じられないと思っっている。
- イ 祖父の死を心から悲しんでいるのに、どうして涙が出てこないのか不思議に思っている。
- ウ 自分がかわいがってくれた祖父が死んだのに、悲しみが湧いてこないのは変だと思っっている。
- エ 自分がかわいがってくれた祖父が死んだので、こんなに悲しいのは当然だと思っっている。

ウ

- (4) 27ページ7～8行め「とりあえず道案内と客のお世話という仕事を与えられてほっとした」とありますが、それはなぜですか。次の文の□□にあてはまる言葉を、文章中から抜き出しなさい。

自	分	の	居	場	所
---	---	---	---	---	---

がなくて困っていた状態から解放されたから。

- (5) 29ページ11行め「少年は少し足を速めた。」について、次の各問いに答えなさい。

- 1 少年が少し足を速めたのは、なぜですか。考えて書きなさい。

例 早く父の昔の写真を見たり、話を聞いたり

したかったから。

- 2 このときの少年の気持ちを、たとえを用いて表した一文を文章中から抜き出し、初めの五字を書きなさい。

買	っ	て	き	た
---	---	---	---	---

※教科書が必要です。

- (6) 少年が初めて祖父の死の悲しみを感じたのは、どのようなときでしたか。「写真」という言葉を使って書きなさい。

例 祖父に昔の写真を見せたかったが、もう祖父と話すことはできないのだと改めて感じたとき。

- (7) 32ページ8～9行め「三代で船に乗れたらうれしいことです。」とありますが、祖父はどのようなことを願っていたのですか。「漁師」という言葉を使って書きなさい。

例 少年にも漁師になってほしいということ。

別解 自分と息子に続き、孫も漁師になること。

- (8) 35ページ2行め「父は涙ぐみながら」とありますが、このあと父が実際に涙を流したことがわかる一文を文章中から抜き出し、初めの五字を書きなさい。

父は拍手を

- (9) 35ページ12行め「かすかな潮のにおいは、そこにもあった。」とありますが、これはどういうことを暗示していると考えられますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 祖父の血や生き方が、少年にも受け継がれていること。
- イ 漁師をしていた祖父が、死んで海に帰っていったこと。
- ウ 涙も海の水も、全く同じ成分で構成されていること。
- エ 少年が、将来漁師になるしかないこと。
- オ 少年が、将来漁師になるしかないことと諦めたこと。

ア

- (10) 「タオル」は、この作品の中で、どのような役割を果たしていますか。次の文の□にあてはまる言葉を、あとから一つずつ選んで書きなさい。

漁師だった祖父の人柄や生き方を

象徴

するものであり、祖父が

死んだ悲しみを少年に

実感

させる役割。

追求

実感

忘却

称賛

象徴

- (11) Aさんは、この作品に出てくる「涙」に着目して、少年の気持ちの変化を次のようにまとめました。□①～③にあてはまるものをあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

「なのに、涙が出てこない。悲しいかどうかもはつきりしない。」(26ページ13行め)

①

「急に寂しくなった。涙は出なくても、だんだん悲しくなってきた。」(34ページ3行め)

②

「まぶしさに目を細め、またたくと、熱いものがまぶたからあふれ出た。」(35ページ11～12行め)

③

- ア 祖父の死が信じられず、心の底から悲しめないでいる。
- イ 祖父の死と向き合い、悲しみがこみ上げてきている。
- ウ 祖父がもうこの世にいないことを実感している。
- エ 祖父の死を具体的なものとして感じられないでいる。

①

エ

②

ウ

③

イ

名前:

60/3

※教科書が必要です。

実施日： 月 日

教科書 P.48-55

5

文章完全マスタープリント

日本の花火の楽しみ

教科書50～54ページ「日本の花火の楽しみ」の全文を読んで、あとの問いに答えなさい。

(1) 50ページ7～8行め「日本の花火は、一発のときばえを極限まで追求して進化してきた」について、次の各問いに答えなさい。

1 日本の花火が、一発のときばえを極限まで追求するのは、なぜですか。文章中の言葉を使って、四十字以内で書きなさい。

例

日	本	の	花	火	大	会	で	は	、
一	発	ず	つ	の	花	火	を	じ	っ
く	り	鑑	賞	で	き	る	打	ち	上
げ	方	法	が	主	流	だ	か	ら	。

2 一発のときばえを極限まで追求した結果、日本の花火にはどのような特徴たぐいが生まれましたか。50ページから二つ抜き出さない。〔順不同〕

整った形

明瞭な色彩が変化するさま

(2) 51ページ4行め「割物」とありますが、この花火の説明として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 球体の内側にさらに「芯」という球体を入れた花火。
- イ 球体の外側に「星」、内側に「割火薬」が入っている花火。
- ウ 球体の外側に「割火薬」、内側に「星」が入っている花火。
- エ 球体の中に「星」と「割火薬」が交互に入っている花火。

エ

(3) 「割物」に入れる星の色が、飛び散る時に何度も移り変わるの、なぜですか。二十五字以内で書きなさい。

例

発	色	の	違	う	火	薬	が	二	重
三	重	の	層	に	な	っ	て	い	る
か	ら	。							

(4) 51ページ10行め「芯物」とありますが、高い品質の「芯物」を作るためには何が必要なのでしょうか。「花火師たちの……」に続くように、二つ書きなさい。〔順不同〕

花火師たちの

例 高い技術。

花火師たちの

例 よりよい花火を探求する精神。

(5) 花火師は、どのようなことを仕事としているのですか。51ページから十六字で抜き出さない。

花	火	を	作	り	、	そ	れ	を	打
ち	上	げ	る	こ	と				

(6) 52ページ1～2行め「花火師によると、……ものだという。」とありますが、これと同様に、他の人から得た情報であることを示す表現を、52ページから七字で二つ抜き出さない。〔順不同〕

と	の	こ	と	で	あ	る
と	花	火	師	は	言	う

名前：

※教科書が必要です。

(7) 52ページ6行め「それぞれの条件」とありますが、具体的には花火がどうなることですか。次の文の□□にあてはまる言葉を、文章中からそれぞれ抜き出しなさい。

・ゆがみなく ま ん 丸 く 大 き く 開くこと。

・はつきりした発色で一斉に 変 色 し、一斉に 消 え る こと。

・芯物の場合は、芯の部分全体ができるだけ丸く大きく開き、その中心が 一 点 に 合 わ さ る こと。

(8) 52ページ9行め「形の乱れやゆがみ」とありますが、これとは対照的な花火の姿を表す言葉を、52ページから七字と八字で抜き出しなさい。

破 綻 の な い 丸 さ

大 き く 整 っ た 球 体

(9) 53ページ11～12行め「全ての星が一つも残らず一斉に燃え尽きて、全体が一瞬で消えるのが理想」とありますが、このような花火には、どのような特色がありますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 強烈な余韻を残し、華やかさとはかなさとの落差が鮮烈な印象を与える。

イ 一つ一つの花火の丸さや大きさの印象が混同せず、記憶に残る。

ウ 次に打ち上げる花火の星の色と重ねて、より複雑な色合いを見せる。

エ 花火が消えてから、次に花火を打ち上げるまでの時間を長くとれる。

ア

(10) この文章全体の構成について、次の各問いに答えなさい。

1 この文章を四つのまとまりに分けるとすると、二つめ・三つめ・四つめはどこからですか。それぞれ初めの五字を抜き出しなさい。

二つめ 打 ち 上 げ 前 三つめ 花 火 師 に よ

四つめ 現 在 の 花 火

2 筆者は一つめのまとまりで、問いの形で話題を提示しています。それをまとめた次の文の□□にあてはまる言葉を、50ページからそれぞれ抜き出しなさい。

・花火が 日 本 人 を ひ き つ け る 理由について。

3 四つめのまとまりでは、筆者は2の理由をどのように述べていますか。文章中の言葉を使って、六十字以内で書きなさい。

例

味	と	っ	し	い	古
わ	は	て	、	っ	来
え	か	、	求	た	よ
る	な	花	め	感	り
芸	さ	火	る	覚	情
術	と	は	日	を	緒
だ	を	華	本	よ	、
か	同	や	人	く	風
ら	時	か	に	理	情
。	に	さ	と	解	と

名前:

2 虹の足

6〜7ページ

作者・作品の確認問題

- 1 吉野弘
- 2 虹(の足)
- 3 幸福

知識の確認問題

- 1 口語詩
- 2 自由詩
- 3 口語自由詩
- 4 ①直喩法 ②隠喩法 ③擬人法

漢字の確認

- ◆ ①にじ ②ひとかけ ③ほお ④ぼく
- ⑤乾麺 ⑥抱 ⑦染 ⑧驚

8〜9ページ

必修問題

(1) 例雲間から、細い陽射しが長く真直に地上にさし込む様子。(26字)
 別解 雲間から地上に降り注ぐ陽射しの、真直である様子。(24字)

(2) ウ

(3) 1 イ

2 例村の人々には、虹の足が見えていないから。(20字)

(4) 村の人々

(5) ア

(6) 他人には見えていること

- (7) ⑦バスの中の僕ら(僕ら・乗客たち) ⑧村の人々 ⑨虹の足(虹)
- (8) そんなこと
- (9) ウ

解説

(1) 太陽の光が雲間から直線的にさし込む様子を「乾麺かえめん」にたとえている。
 記述 ・⑦「雲間から」さす①「陽射し」が、⑨「真直」であることを書く。
 ポイント ・「……の……様子。」……が……様子。」とまとめる。

(3) 「僕」は、村が虹の足に包まれているのに、その足にさわるうとする人影が見えないことを不思議に思っている。その理由を「多分、あれはバスの中の僕らには見えて/村の人々には見えないのだ。」(20〜21行め)と推測している。

記述 2・「あれ」が「虹(の足)」であることを明らかにして書く。
 ポイント ・理由を示す「……から。」などで結ぶ。

(5) 直後に「虹の足に見とれた」とあることに注目する。バスの中の乗客たちは、虹の足の美しさに心を奪われているのである。

(6) 詩の最後の五行には、倒置法が使われている。

(7) —線⑦・⑧は「見えて」「見えない」という対比的な言い回しに注目して捉える。—線⑨は、その中に見える人には見えなくて、外にいる人には見えるものだとすることに注意する。

(8) バスの中から「虹の足」を見る↓「虹の足の底」に村と家があるのを見える↓自分たちの家が虹の中にあることに気づかない村の人々、ここまでは、情景を描写している。そして後半で、幸福も他人には見えて自分には見えていないこともあるのだろうと、作者の思いを述べる構成になっている。

(9) 後半のまとめに、「僕」が「虹の足」を見て発見したことが書かれている。幸福とは「虹の足」のようなものであり、他人には見えて自分には見えていないこともあるというのが、この詩の主題である。

1 七(音と)五(音)

- (1) 例 全てのものは常に移り変わって、とどまらないという意味。(27字)
 祇園精舎の鐘の聲
 (2) 祇園精舎の鐘の聲
 (3) 祇園精舎の鐘の聲
 (4) 例 栄えている者も、いつかは必ず勢力が衰えてしまうという意味。(29字)

2 おごれる人も久しからず(11字)

・たけき者もつひには滅びぬ(12字)〔順不同〕

- (5) 1 例 はかない様子。(7字)
 別解 長続きしない様子。(9字)

2 風の前の塵

A イ B ア C エ

ア
 ウ

- (4) 例 大將軍らしい堂々とした若武者の態度に、心から感服したから。(29字)

別解 死を目前にしても動じない若武者の姿に感心したから。(25字)

例 若武者を討つても討たなくても、勝敗に影響がないと思っただから。(30字)

別解 若武者を助けたとしても戦いに負けることはない判断したから。(30字)

例 小次郎の父親として、若武者の父親の嘆きを思いやったから。(28字)

別解 人の子の親として、若武者の父親の嘆きを想像できたから。(27字)〔順不同〕

例 どうせ討ちとられてしまうこと。

例 若武者を殺さずに済んだ(11字)

- (6) 1 別解 若武者を殺さなくてよかった(13字)

2 工

解説

1 (1) 「祇園精舎の(七音)鐘の聲(五音)、諸行無常の(七音)響きあり(五音)」のように、七音と五音が繰り返されている。音読すると、リズムのよさがわかる。

(2) 「諸行無常」という考え方は、『平家物語』全体に流れている思想だといえる。

(3) 言葉の並べ方が似ていて、内容も対になる句を二つ以上並べて表現することを、対句という。この文章では、一文めと二文め、三文めと四文めがそれぞれ対句になっている。

(4) 1 「盛者」は「勢いの盛んな者」、「必衰」は「必ず衰えること」という意味。「盛んな者も必ず衰える」というように言葉を補って考える。

2 「おごれる人」「たけき者」が「盛者」に、「久しからず」「つひには滅びぬ」が「必衰」にあたる。

(5) 1 「おごれる人も久しからず」ということを「春の夜の夢」にたとえていることから考える。「春の夜」は短いもので、そこで見る夢もはかないという点が「おごれる人も久しからず」と同じなのである。

2 三文めと四文めが対句になっていることも手がかりになる。「たけき者もつひには滅びぬ」ということを「風の前の塵」にたとえている。

(1) A 若武者が波打ちぎわに上がろうとするとところに、熊谷が近づき、首をとろうと顔を見たのである。B 若武者の動作には敬語が用いられていることに注意。熊谷が名のつたのに対して、若武者は「……名のるまじいぞ……」(11~12行め)と「おっしゃった」のである。C を含む文中には、この殿の父は(子が)討たれたと聞いて、どれほどお嘆きになることだろうとある。「この殿」とは、若武者のこと。

(2) 熊谷がどこに刀を突き刺したらよいかわからないかと思っただ理由を、直前の部分から捉える。若武者が自分の息子と同じぐらいの年齢で、顔かたちも美しかったので、熊谷の気持ちに迷いが生じたのである。

(3) 若武者は、今まさに討たれようとしている時に、落ち着いた様子で熊谷に名前を尋ねている。また、熊谷が若武者に敬語を使っているのに対して、若武者は敬語を使っていないことにも注目する。身分の高い若武者の、相手を恐れず、堂々とした態度がうかがえる。

(4) 「あつばれ、大將軍や。」から、若武者の大將軍らしい態度に熊谷が感服したことも、若武者を助けたいと思った理由の一つであることをおさえる。

記述ポイント ・一つめは「若武者の大將軍らしい態度に感服したこと」、二つめは「この人一人……よもあらし。」の内容、三つめは「小次郎が……嘆き

たまはんずらん。」の内容をまとめる。

・「……から。」など理由を示す表現で結ぶ。

(5) 熊谷がここで若武者を助けたとしても、あとからやってくる軍兵によって

若武者が討たれるのは必至の状況だった。どうせ若武者が討ちとられるのなら、自分が討って、死後に供養しようと思ったのである。

若武者がどのみち死ぬこと。

誤答例

↓若武者が死ぬ理由がわかるように、「若武者がどのみち討ちとられること。」「若武者がどのみち源氏に殺されること。」などと書くことよ。

(6)

1 [] の直前の「武芸の家に生まれなければ」と同じ意味の言葉が、古文中にもある。それは29行めの「武芸の家に生まれずは」なので、続く「何とてかかる憂きめをばみるべき」にあたる内容が [] に入ると判断できる。熊谷は、自分が武芸の家に生まれなければ、人を殺すようならいめに遭わなかったのに、と思ったのである。

記述ポイント

・「若武者を殺さずに済んだ」という内容をまとめる。
・「若武者」という言葉を使う。

・空欄の前後の言葉にうまく続くようにまとめる。

若武者は死なずに済んだ

誤答例

↓熊谷でなくても、他の人が若武者を殺したかもしれないので、若武者が死なずに済んだとはいえない。熊谷が若武者を殺すはめにならなかったことがわかるように書くことよ。

2 若武者が持っていた笛を見た人々は、「涙を流さずといふことなし」とある。つまり、「みな涙を流した」のである。それは、若武者がいくさの場にも笛を持参するような優雅な人物だとわかったからであり、熊谷はその優雅さに感動したのである。